

(別添2)

## 求職者等の個人情報の取扱いについて

- 職業安定法(昭和22年法律第141号。以下「法」という。)が平成11年7月に改正され、新たに求職者等の個人情報の取扱いの規定が設けられました。
- この規定は平成11年12月から施行され、必要な範囲内で募集に応じた者等の個人情報を収集、保管、使用しなければならない旨規定されています。
- また、併せて、法に基づく指針(以下「指針」という。)が公表され、原則として収集してはならない個人情報等が規定されました。
- 労働者の募集を行うものは募集形態の如何(直接募集、文書募集、委託募集)を問わず、法第5条の4の規定、指針第4を遵守して行わなければいけません。
- しかしながら、就職差別を未然に防止し、公正な採用選考を図るためには、この規定、指針だけを遵守すればよいというものではありません。
- 従来から、公正な採用選考について、事業主の皆様にご理解とご協力を要請してきた趣旨を十分御認識いただき、今後共、公正な採用選考システムの確立が図られるよう、さらに積極的な取組みをお願いします。

### 職業安定法(抄)(求職者等の個人情報の取扱い)

#### 第5条の4

公共職業安定所等は、それぞれ、その業務に関し、求職者、募集に応じて労働者になろうとする者又は供給される労働者の個人情報(以下この条において「求職者等の個人情報」という。)を収集し、保管し、又は使用するに当たっては、その業務の目的の達成に必要な範囲内で求職者等の個人情報を収集し、並びに当該収集の目的の範囲内でこれを保管し、及び使用しなければならない。

ただし、本人の同意がある場合その他正当な事由がある場合は、この限りではない。

(以下略)

### 指針(平成11年労働省告示第141号)(抄)

#### 第4 法第5条の4に関する事項(求職者等の個人情報の取扱い)

##### 1 個人情報の収集、保管及び使用

(1) 職業紹介事業者等(注)は、その業務の目的の範囲内で求職者等の個人情報(以下単に「個人情報」という。)を収集することとし、次に掲げる個人情報を収集してはならないこと。ただし、特別な職業上の必要性が存在することその他業務の目的の達成に必要な不可欠であって、収集目的を示して本人から収集する場合はこの限りでないこと。

- イ 人種、民族、社会的身分、門地、本籍、出生地その他社会的差別の原因となるおそれのある事項
- ロ 思想及び信条
- ハ 労働組合への加入状況

(2) 職業紹介事業者等は、個人情報を収集する際には、本人から直接収集し、又は本人の同意の下で本人以外の者から収集する等適法かつ公正な手段によらなければならないこと。

(3) 職業紹介事業者等は、高等学校若しくは中等教育学校又は中学校の新規卒業予定者から応募書類の提出を求めるときは、職業安定局長の定める書類(全国高等学校統一用紙又は職業相談票(乙))により提出を求めること。

(4) 個人情報の保管又は使用は、収集目的の範囲に限られること。ただし、他の保管若しくは使用目的を示して本人の同意を得た場合又は他の法律に定めのある場合は、この限りでないこと。

##### 2 個人情報の適正な管理

(1) 職業紹介事業者等は、その保管又は使用に係る個人情報に関し、次の事項に係る措置を講ずるとともに、求職者等からの求めに応じ、当該措置の内容を説明しなければならない。

- (イ) 個人情報を目的に応じ必要な範囲において正確かつ最新のものに保つための措置
- (ロ) 個人情報の紛失、破壊及び改ざんを防止するための措置
- (ハ) 正当な権限を有しない者による個人情報へのアクセスを防止するための措置
- (ニ) 収集目的に照らして保管する必要がなくなった個人情報を廃棄又は削除するための措置

(2) 職業紹介業者等が、求職者の秘密に該当する個人情報を知り得た場合には、当該個人情報が正当な理由なく他人に知られることのないよう、厳重な管理を行わなければならないこと。なお、有料職業紹介事業者は特に厳重な管理を行わなければならないこと。(以下略)

(注) 「職業紹介事業者等」には、労働者の募集を行う者も含まれます。